

第4章 周辺まちづくり

周辺まちづくりの検討エリアは、緑町一丁目、二丁目、三丁目、吉祥寺北町四丁目、五丁目を中心とする。



1. 周辺まちづくりの基本方針

周辺まちづくりについても、第一期協議会の方針に沿って、「低炭素社会のモデルの実現」、「地域力」の向上、「まちづくりとの連携」を柱として検討を進める。

「低炭素社会のモデルの実現」

炭素排出量を減らすため、極力自家用車を使わない生活を送れるようなまちを目指す。そのためには、まず誰もが安全に、そして安心して快適に歩くことのできる歩行者空間とそのネットワークが必要である。歩道のバリアフリー化、歩車分離式信号機の設置、快適なオープンスペースの整備などにより、歩きたくなるような魅力的な街並み、心地よい空間の創出を目指す。また、自家用車を使用しなくても、歩く範囲で日常生活をまかなうために、身近に、生活に必要な物を購入できる店舗や、地域の人との交流の場となるカフェや郵便局があることが望ましい。

このエリアは、武蔵野市の中でも特に緑が多い地域である。緑はこの地域の景観的な財産となるだけでなく、低炭素化にも貢献する。緑の保全だけでなく、さらに剪定枝葉の活用な

などを地域レベルの取組みとして推進していく。

平成 29（2017）年 4 月稼働の新クリーンセンターは、ごみ発電設備を導入、ガス・コージェネレーションも併設し、災害時にもエネルギー供給が可能なエネルギーの地産地消を実現する施設である。クリーンセンターを核としたエネルギーのさらなる取組みについての検討も進められており、今後エネルギー分野における公共施設間の連携が期待される。また、民間施設や各家庭においても省エネルギー化や再生エネルギー化に資する取組みが広がることを期待する。

「“地域力”の向上」

「3方よし」の関係性を周辺地域の公共空間全体に広げる。このエリア内には、陸上競技場・総合体育館、中央図書館、高齢者総合センターなど、多くの公共施設が集積しているが、それぞれの施設利用者同士や施設利用者と周辺住民とのつながりや接点が希薄で、時には、快適に同じ空間を共有することができないことがある。施設を利用する人、このエリアに暮らし、それを見守る人、通りかかる人の誰もが快適に公共空間を共有できる仕組み、利用方法が望まれる。

また、各施設の境界部分においては、各施設の利用者同士や周辺住民との融合を図るため、施設を開き、開かれた空間同士をつなぎ、なじませるなど、中間領域的な設えとしたい。例えば、すでに完成した武蔵野クリーンセンター工場棟東側の公開空地「コミュニティスペース」は、中央通り、市役所前の公開空地に接する形で公開され、さらに「エコマルシェ」などのイベント広場としても活用され、「まちとつながるクリーンセンター」を体現している。

緑町コミュニティセンターでは、2階を予約がないときに原則自由利用にすることや、「ひろば利用」という、貸出時間中、テーマに関心がある住民であれば自由に出入りできる、ひろば型の新たな貸出し方法の検討を行い、試験的に実施してきた。

また、グリーンパーク商店会では、「軒先フェスタ」が催され、「MIDOLINO_」が整備されている。グリーンパーク商店会および緑町一番街は、長年このエリアの住民の生活を支えてきた商店会であるが、大型スーパーの進出や、商店会の店主の高齢化などにより、最近ではシャッターが下りたままの店舗が目立つようになってきている。「軒先フェスタ」では、シャッター

が下がる店舗の軒先も含め、様々な商品が陳列され、多くの人で賑わい、一時的に商店街に活気があふれることから、さらなる広がりが期待される。空き店舗を活用して整備したシェアキッチン「MIDOLINO_」は、利用者による様々な催しで、これまでになかった賑わいを生み出している。

けやきコミュニティ協議会のナイトウォーク、緑町三丁目町会による町内パトロールは、住民による自主的な防犯活動として長年取り組まれ、犯罪のない地域社会づくりに貢献してきた。住民同士顔の見える関係を育むことで、地域の防犯性を高めていくことに今後さらに力を入れていくことが重要になる。

このような関係性は防災にも寄与する。このエリアは、自主防災組織が多くあり、市内唯一の、災害時においてもエネルギー供給可能な緑町コミュニティセンターがあることから、このポテンシャルを活かし、防災面でも住民と利用者が相互に支え合うことのできるまちを目指す。

「まちづくりとの連携」～市民と行政のまちづくりの連携～

このエリアは市民が東京都や武蔵野市とともにまちづくりを進めてきた経緯がある。例えば、都立中央公園とむさしの市民公園を結ぶ緑のつながりとして、都営武蔵野緑町アパート建替えにより創出された約 10,000 m²の未利用地を防災機能も持ち合わせた中央公園として拡充することができた。元々この地にあった中島飛行機武蔵野製作所の旧変電室を含む歴史の継承として、公園拡充部分に解説板の設置や当時の DNA を引き継ぐシンボルツリーの移設も行政と連携しながら実現させてきた。

また、グリーンパークビルが建設され、大型スーパーの進出が決定した際には、地域の安全や騒音など環境への影響、路線商店街への影響、バス停移動など多くの問題が起こった。話し合いを積み重ね、行政とも連携しながら、グリーンパークビル敷地内にフリーマーケットなども開催できる公開空地の整備や、市道第 240 号線の整備、バス路線の新設を実現した。

市道第 17 号線や市道第 41 号線は景観整備路線に位置付け、電線類の地中化の検討を進めることになっている。現在進行中の千川上水は整備計画においても、市民の意見を取り入れ、

魅力的なまちづくりをしていくことが望まれる。また、このような市民と行政の関係性を今後も維持し、さらに NTT 武蔵野研究開発センタとの連携を深め、まちの魅力を高めていく。

2. 周辺まちづくりの現状と課題

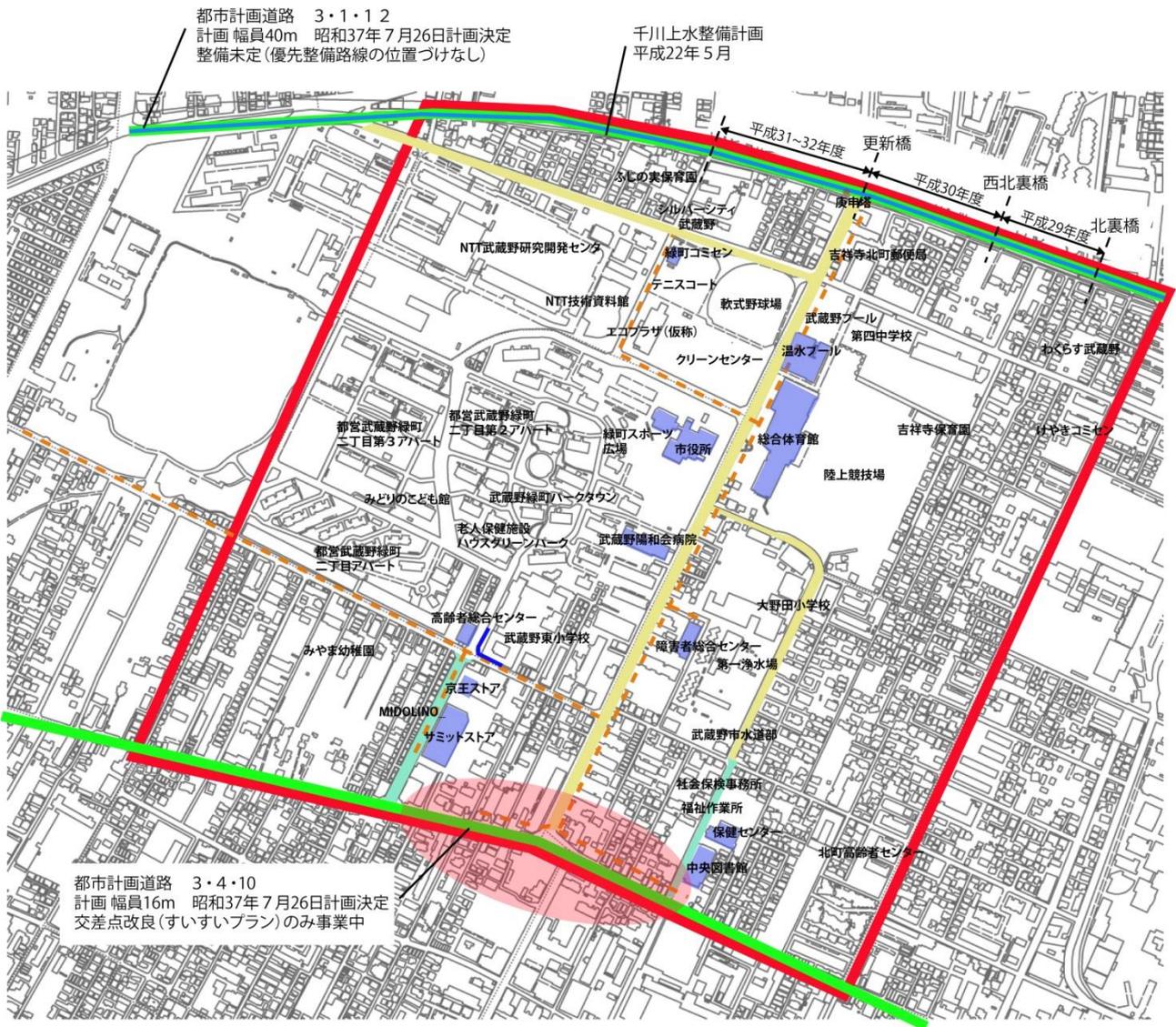
エリア内の現状を整理し、課題を共有した。東京都、武蔵野市の都市計画に関する計画を確認し、防災、アメニティ・バリアフリー、緑、エネルギー、コミュニティの 카테고리ごとに整理した。

(1) 都市計画に関する計画について

エリア内における東京都、武蔵野市の都市計画などに関する計画を整理した。

▼都市計画などに関する計画の地図

(資料) 地理院地図 (国土地理院) を基に作成



(2) 防災について

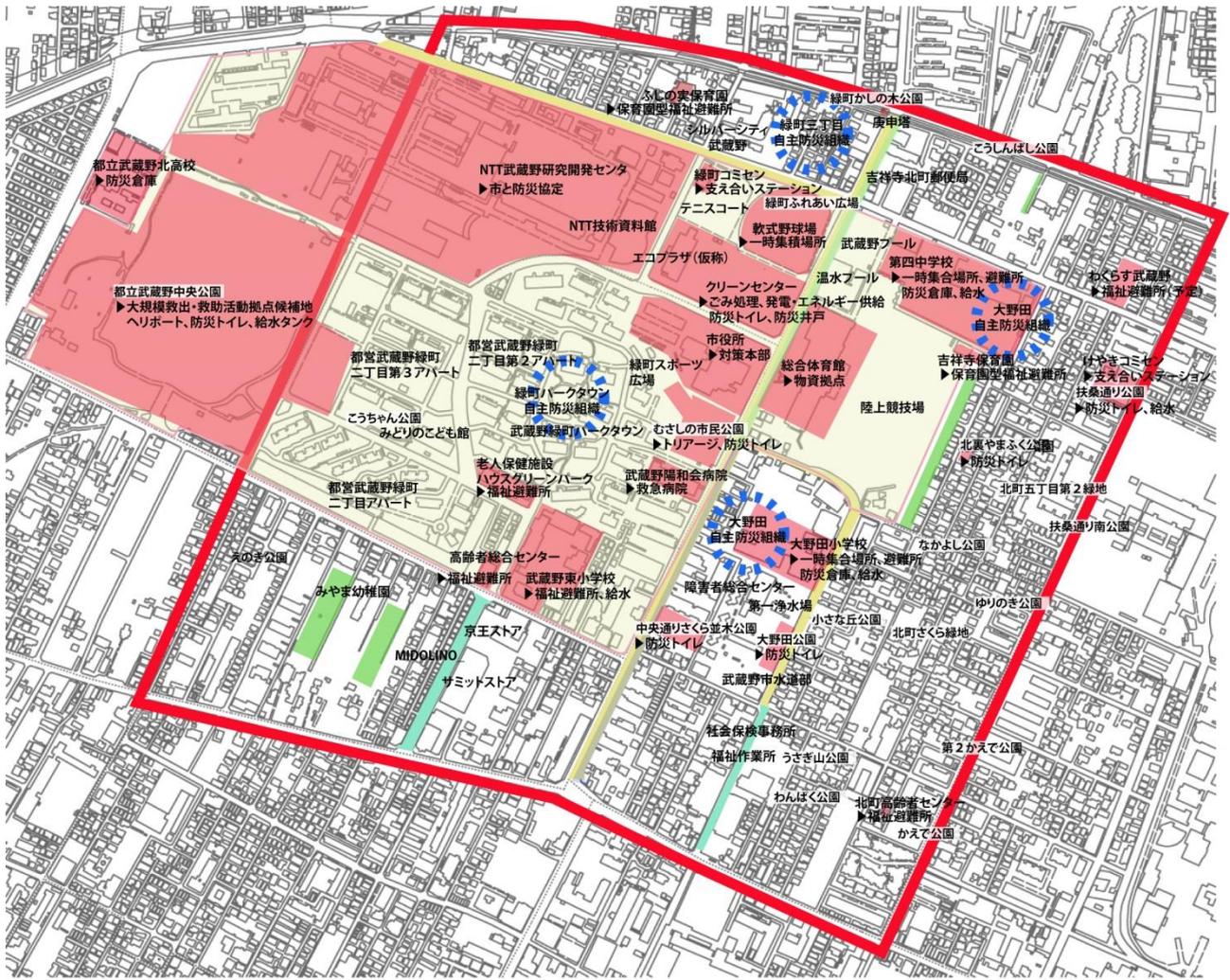
このエリア内の多くが広域避難場所に指定され、災害時に災害対策本部が設置される市役所を核とし、災害物資の搬出入拠点となる総合体育館、災害時のがれき置場（一時集積場所）となる軟式野球場、災害時においても電力供給が可能なクリーンセンターなど、災害の際になくてはならない施設が集積している。

これらの現状から、緊急車両の通行確保のため、市道第 17 号線の街路樹（桜の老木）の植え替えが行われている他、市道第 17 号線及び市道第 41 号線が景観整備路線に位置付けられ、電線類の地中化の検討が進められている。民地のブロック塀の生け垣化などが進むことで、よりいっそうの防災面の強化が期待される。

また、クリーンセンターは、災害時においても電力供給可能であることを活かし、ごみ処理を優先しつつも、災害時に地域団体と連携しながら、情報提供や一時休憩、電源・給湯・トイレの開放などを行うことになっている。（詳細は、「第 3 章市役所北エリア 3. 市役所北エリアの整備の考え方 (5) 災害時のクリーンセンター運営事業者と地域団体との連携」参照）その他、防災倉庫や、防災トイレ、給水場所など、このエリア内にある施設が有する防災機能を地図に記載した。地域の自主防災組織の活動が活発なエリアであり、NTT 武蔵野研究開発センターも市と災害時の連携・協力のための防災協定を締結している。自主防災組織同士の連携がいっそう進み、これらの防災機能が有効に利用されることが求められる。

▼防災の地図

(資料) 地理院地図 (国土地理院) を基に作成



- | | | | |
|---|----------------|---|------------|
|  | 特定緊急輸送道路 |  | 広域避難場所 |
|  | 一般緊急輸送道路 |  | 防災協定農地 |
|  | 景観整備優先路線 (実施済) |  | 防災機能を備える施設 |
|  | 景観整備優先路線 (計画) |  | 自主防災組織 |

(3) アメニティ・バリアフリーについて

公共施設が集積しているエリアであることから、公共施設間を結ぶ経路におけるバリアフリー化の計画が進んでいる。また、比較的まとまった土地も混在していることから、市の公園、公共施設内の公開空地だけでなく、武蔵野市まちづくり条例に基づく公開空地、自主管理公園、歩道状空地など、民間の敷地内にも都市のアメニティを高める空間が多く創出されている。

特に、武蔵野緑町パークタウン・都営武蔵野緑町アパートの緑豊かな敷地内に、都市軸を意識した歩行者通路が計画されており、このエリア内の回遊性に寄与している。また、クリーンセンターや市役所、中央図書館などの公共施設の敷地内の広場が辻の役割を担っており、交差点のにぎわい創出につながっている。

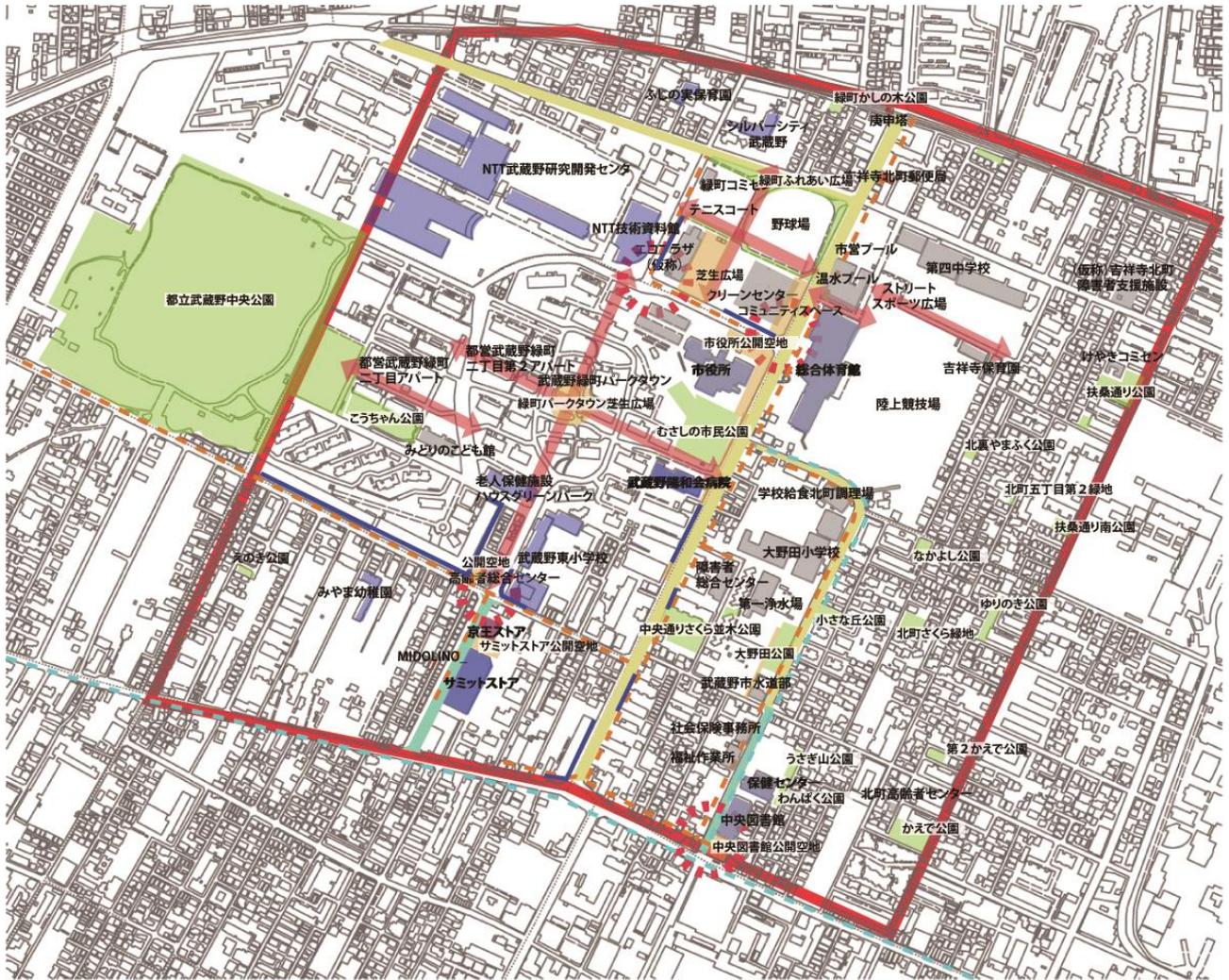
今後、エコプラザ（仮称）とNTT技術史料館との連携を深め、クリーンセンター敷地南西角も辻の空間として整備を推進したい。さらに、これらの空間のネットワーク化や境界部分を開かれた設えとすることに配慮していきたい。

一方で、車や自転車、歩行者の移動が混在し、安全性や快適性に課題がある場所も存在する。商店会への車両制限や、自転車ナビマークのネットワーク拡張が進むことが期待される。

また、公共施設が集積している特性を活かし、会議室等の相互利用により、公共空間の有効利用の推進が望まれる。

▼アメニティ・バリアフリーの地図

(資料) 地理院地図 (国土地理院) を基に作成



- 歩行者の軸
- 景観整備優先路線(実施済)
- 景観整備優先路線(計画)
- 公園
- 生活関連施設(バリアフリー基本構想)
- 生活関連経路(バリアフリー基本構想)
- 自転車ナビマーク
- 公開空地
- 歩道状空地
- ⊙ 辻(交差点のにぎわい)

(4) 緑について

都立公園や公共施設の存在、また民有地においても比較的まとまった土地が多いことや、桜並木などの存在から、武蔵野市の中でも緑被率が高いエリアである。特徴的な緑として、市道第17号線の桜並木、千川上水、中央公園、武蔵野緑町パークタウンが挙げられる。

市道第17号線の桜並木は、市民に長年にわたって親しまれており、緑の軸にもなっているが、樹齢60年を迎えているとされ、市では安全面の観点から、保全を前提に植え替えを進めている。

千川上水は、水と緑のネットワークを形成するだけでなく、市民の散策や散歩道として親しまれている。市も「千川上水整備計画」を策定し、親水空間の整備を推進している。

中央公園は広々とした原っぱが特徴的で、市民参加の議論を経て整備がなされた。元々は、中島飛行機の工場であったところが、米軍宿舎となり、昭和46(1971)年に返還され、昭和53(1978)年8月から暫定利用としての全面開放が実現し、このときから原っぱとして市民に親しまれるようになった。公園整備の計画が進むにつれ、原っぱ存続を訴える運動が生まれ、議会や市も市民と一体となって「原っぱ保存」を求め、原っぱ公園の整備が実現した。原っぱは、現在でも子どもたちの貴重な遊び場となっている。さらに、都営武蔵野緑町二丁目アパートの建替え時に発生した空地进行を緑懇話会などの働きかけもあり、都立武蔵野中央公園の一部として平成30(2018)年度に拡充された。

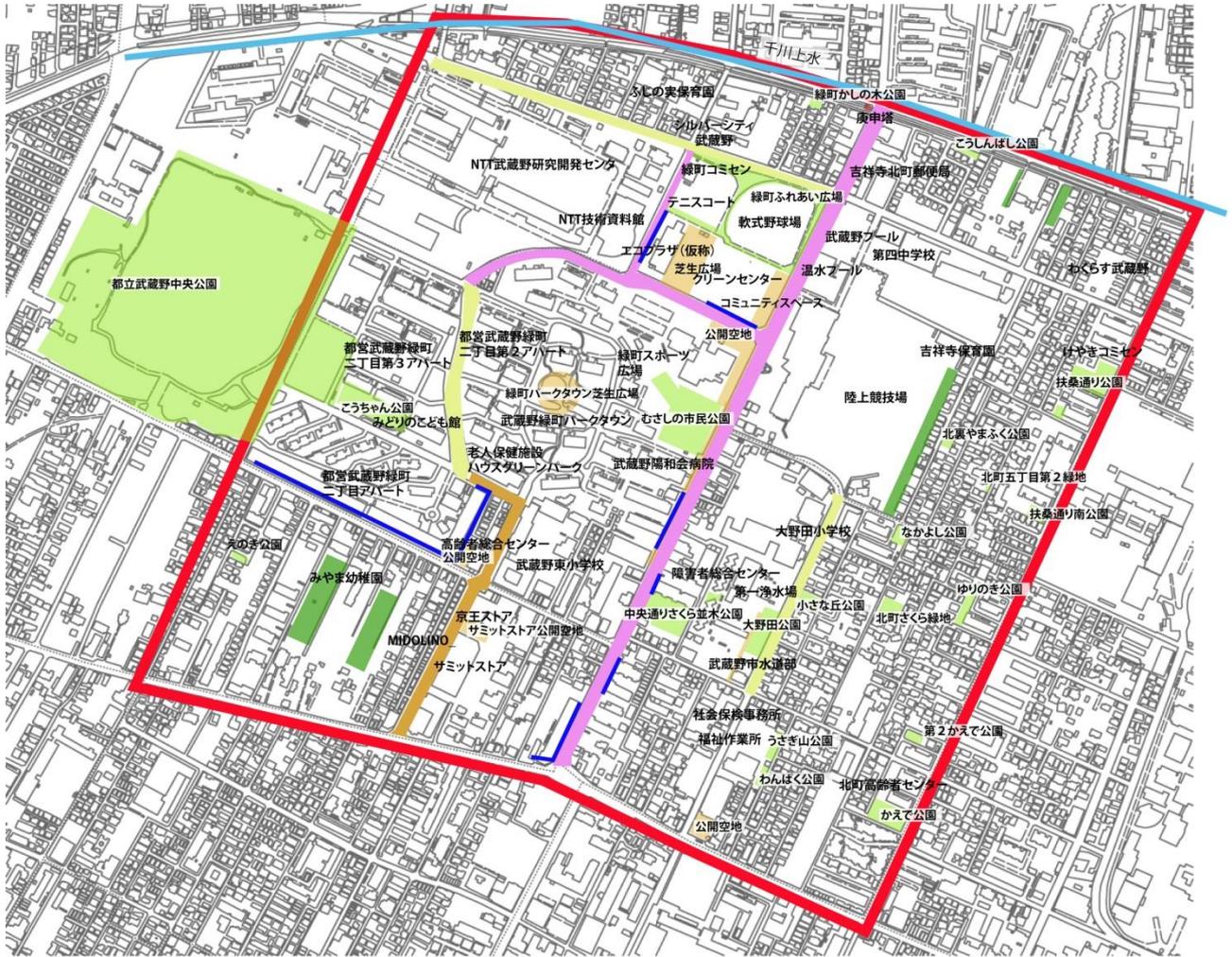
武蔵野緑町パークタウンは、敷地内には多様な緑がある。建替え時になるべく既存の樹木を残したことや、生物多様性を意識した植栽計画がなされたことにより、豊かな緑の空間が形成されている。敷地内の遊歩道からこれらを楽しむことができる。また団地の中央に位置する芝生広場は、歩行者ネットワークの結節点として、子どもたちの遊びの場として機能する他、併設する集会所とともに夏祭りなど地域の交流の場としても活用されている。

緑町一丁目、吉祥寺北町五丁目には、都市の貴重な農地も残されている。

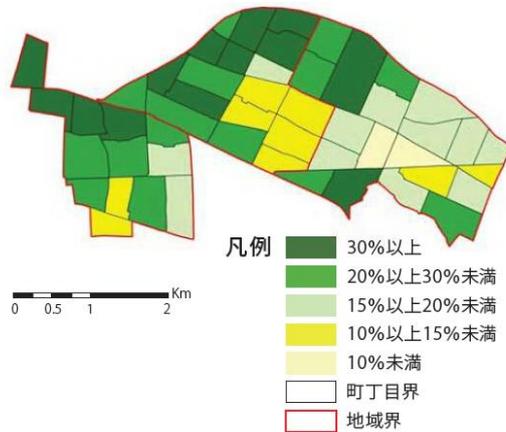
今後も緑豊かな地域であり続けるために、公共施設だけでなく民有地においても緑を守り、育てる必要がある。また、樹木の管理は住民と行政が連携しながら進めており、落ち葉や剪定枝葉の資源化についても積極的に取り組む必要がある。

▼緑の地図

(資料) 地理院地図 (国土地理院) を基に作成



- さくら並木
- 公開空地
- 公園
- かつら並木
- 歩道状空地
- 農地
- いちょう並木



緑被率 (平成 29 年度調査)

(5) エネルギーについて

市役所、クリーンセンター、NTT 研究開発センタなどの大規模事業所があることが影響し、このエリアのエネルギー需要は、市内の他のエリアに比べ高い傾向にある。低炭素社会のモデルの実現のため、省エネルギー化、再エネルギー化を推進する必要がある。

平成 29 (2017) 年 4 月に本稼働したクリーンセンターでは、ごみ焼却により発生する排熱を活用した発電設備を搭載し、エネルギーの地産地消モデルとして、市役所、総合体育館などの周辺公共施設へのエネルギー供給拠点としての役割も担っている。その他の公共施設では、大野田小学校に燃料電池、太陽光発電パネルが、「わくらす武蔵野」に太陽光発電パネルが整備されている。今後整備されるエコプラザ（仮称）では、太陽光発電パネルの設置、蓄電池の設置が予定されている。また、エリア外ではあるが、むさしの自然観察園では、実験的に地中熱を活用した空調も導入されている。

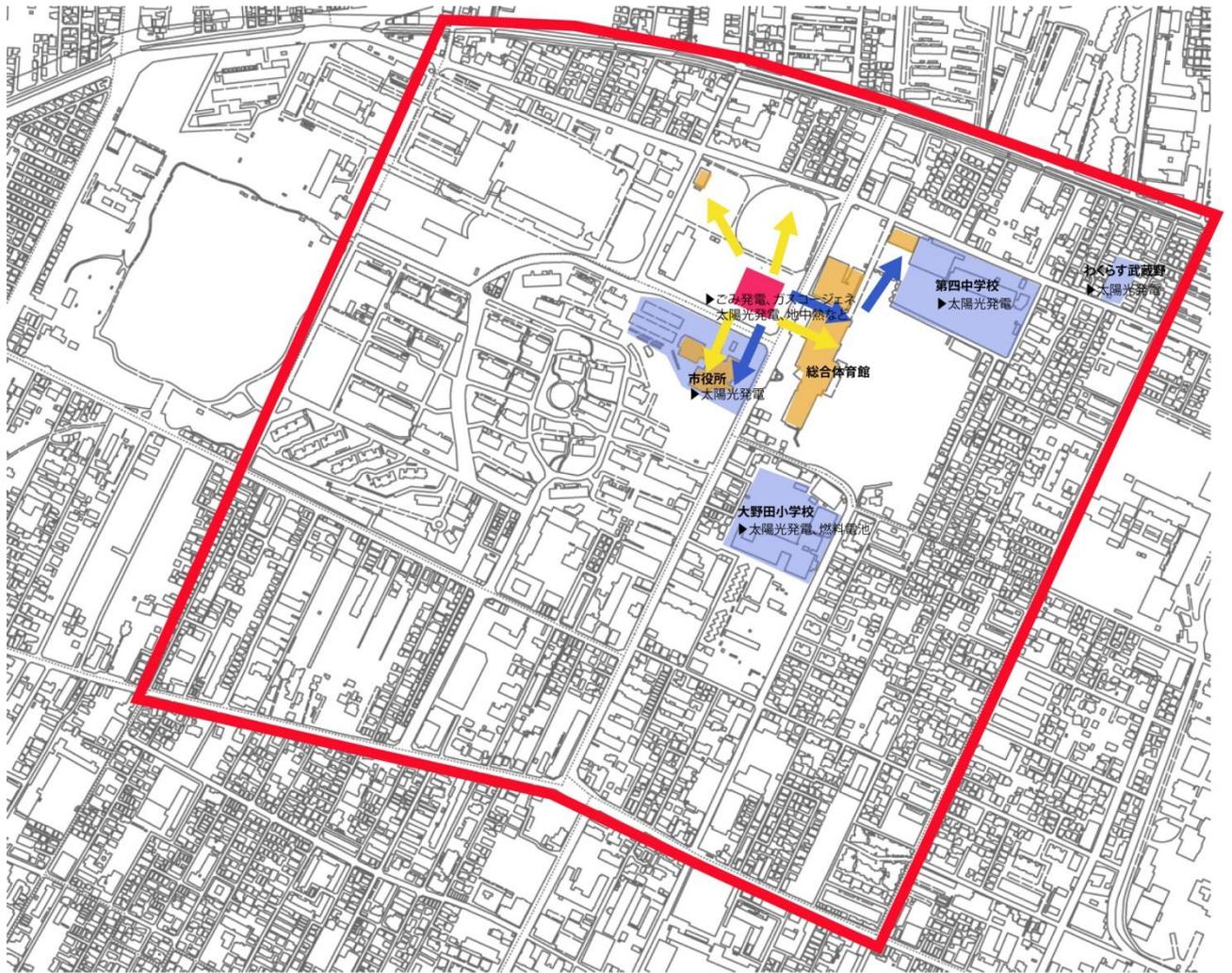
市では、クリーンセンターをエネルギーの地産地消の核として位置付けており、エネルギー供給の発展的取組みについての検討を進めている。今後エネルギー分野における公共施設間の連携が期待される。

一方、民有地については、現状把握が難しかったが、市の補助制度を活用して、住宅の太陽光発電やガス・コージェネレーションを設置した住宅を確認した。補助制度を活用しての整備はあまり多くはなかったが、今後、住宅の省エネルギー化、太陽光発電等の普及が必要である。

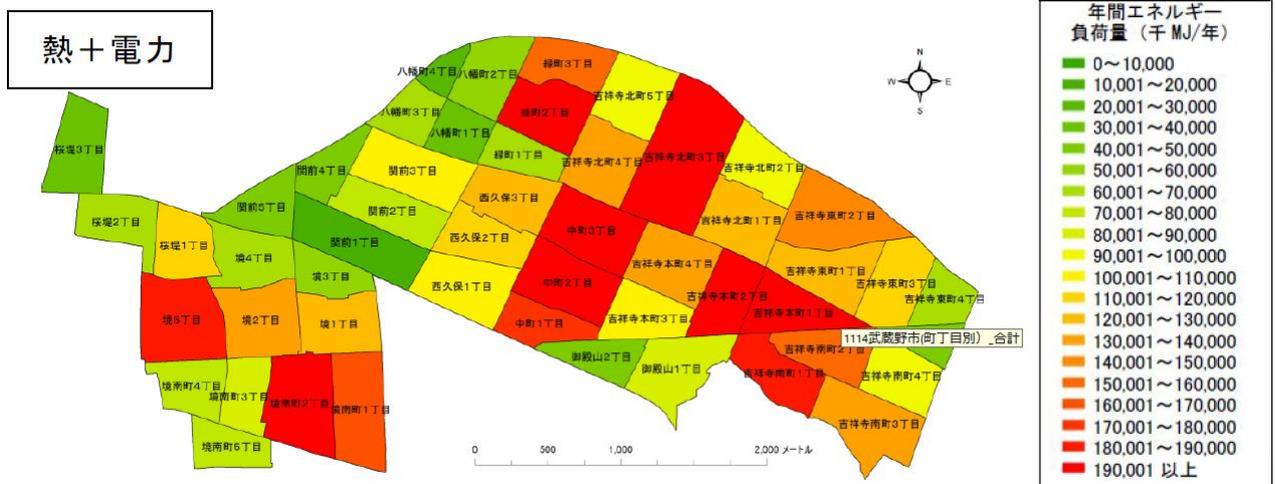
このエリアには、NTT 研究開発センタなど、比較的規模の大きい民有地が残されていることから、今後環境にインパクトのある開発が行われる可能性もある。低炭素社会モデルの実現という目標に向けて、エリア内で開発、建築する際には、低炭素化への貢献を具体的に求めていくようにする必要がある。

▼エネルギーの地図

(資料) 地理院地図 (国土地理院) を基に作成



→ 電気供給
→ 蒸気供給



武蔵野市エネルギー消費状況 (「新たなエネルギー活用検討委員会」報告書 平成 24 年度より)

(6) コミュニティについて

緑町コミュニティセンター、けやきコミュニティセンターを核とした地域コミュニティ、武蔵野緑町パークタウン、都営武蔵野緑町アパートの自治会、商店会など様々なコミュニティが存在している。緑町コミュニティセンター、けやきコミュニティセンターは、旧クリーンセンターの建設がきっかけとなり生まれた施設である。建設の経過は、「(7) 周辺団体の想い～事務局によるヒアリング～」にも記載のとおり、それぞれ経過は異なるが、30年あまりの間、大切に地域コミュニティを育む拠点としての役割を担ってきた。けやきコミュニティセンターについては、7年間にもわたる市民運動の成果により整備された施設であり、その7年間の間に蓄積された知識やネットワークが現在の運営に活かされている。

緑町については、緑町三丁目町会、緑町コミュニティ協議会、都営武蔵野緑町アパート自治会、都営武蔵野緑町第2アパート自治会、武蔵野緑町パークタウン自治会、緑町一番街、ギャラリー管理組合、緑町一丁目町会、高齢者総合センター、グリーンパーク商店会、緑町商栄会により構成される発足30年を迎えた緑懇話会がある。

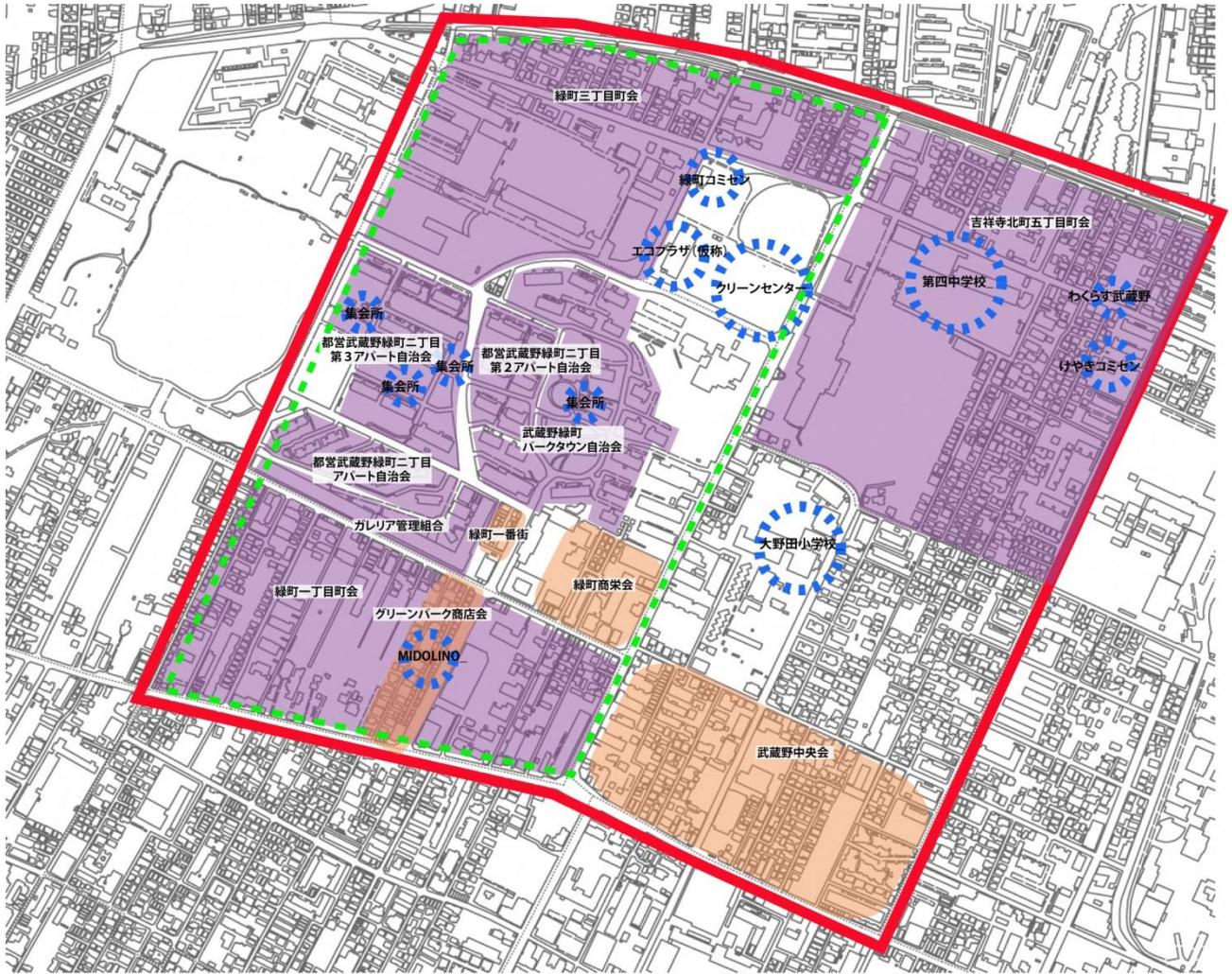
クリーンセンター運営協議会は、クリーンセンターの運転管理の監視役を行ってきて、30年余りのうちで、時々大きな課題を解決し、市とのパートナーシップを築いてきた。その結果として、一つの広範なコミュニティが生まれた。旧クリーンセンター建設を契機に育まれたコミュニティをこれからも大切にしていくことが望まれる。

クリーンセンター建設をはじめ、まちへの課題が生じるたびに、対話をし、課題解決を図ってきた地域である。対話の度に新たな人と人とのつながりが生まれ、コミュニティが育まれてきた。現在進行中のNTT研究開発センタ増築計画においても、緑町三丁目町会とのつながりが生まれつつある。吉祥寺北町五丁目に開設された障害者支援施設「わくらす武蔵野」も地元住民と施設運営者との運営協議会が設置されることになった。平成29(2017)年にグリーンパーク商店会の空き店舗を活用して整備したシェアキッチンMIDOLINO__や「緑の縁側」などにおいて、新たなコミュニティが生まれつつある。平成32(2020)年に開設されるエコプラザ(仮称)についても、環境を軸とした新しいコミュニティ形成が期待される。この地に関わる人と人とが融合し、多世代間の連携や様々な主体による連携を深め、さらに発展させていくことが重要

である。これらのコミュニティを継承し、人と人の対話を通じてコミュニティを育むとともに、まちづくりへと発展させつづけていくことが求められる。

▼コミュニティの地図

(資料) 地理院地図 (国土地理院) を基に作成



- 町会・自治会
- 商店会
- 緑懇話会
- コミュニティ形成に関わる施設

(7) 周辺団体の想い～事務局によるヒアリング～

周辺まちづくりについて各団体の想いを聞くために、平成 30(2018)年 8 月から平成 31(2019)年 1 月にかけて、ヒアリングを行った。その内容は、多岐に及び、1. 団体の歴史・変遷、2. 旧クリーンセンターについて、3. 運営協議会について、4. 新クリーンセンターについて、5. 周辺まちづくりの課題・想い、6. まちの未来の 6 つのテーマに分類した。なお、このヒアリング結果には、ヒアリングに参加した個人の想い・考えも含まれている。また、各団体の立場や個人の立場により、その受け取り方には差異がある。明らかに事実でないことについては、当該団体以外の委員や事務局で加除修正を行ったが、それ以外は、なるべくヒアリング参加者自身の言葉を用いて記述している。以下の表にヒアリング結果の概要を示す。ヒアリングの議事要旨は資料編に添付する。

団体名	武蔵野緑町パークタウン 自治会	吉祥寺北町五丁目町会	緑町三丁目町会
ヒアリング参加者 (敬称略)	委員：興相信子、木村文	委員：高橋豊、早川峻、村 井寿夫 水野隆司	委員：島英二、藻谷征子 大平高司、川村裕、斉藤武 子、杉本安雄
1. 団体の歴史・変遷	昭和 32 年に入居開始 (1019 世帯)。旧クリーン センター建設、武蔵野緑町 団地の建替えを経て自治 会活動が活発になって いった。平成 3～15 年の 建替えにより現在の 855 世帯の団地となった。平成 8 年に武蔵野緑町パーク タウンと名称を改めた(優 先住居 120 世帯として、 240 戸の都営住宅が建設 された。)建替えにより高家 賃化になるため、高齢者が 住み続けられる対策とし て、都営住宅併設を求めて 運動し、平成 12 年に実現 した。	ある日突然、市営プールに クリーンセンターを建設 すると発表された。当時三 鷹市にあったごみ処理施 設と同じような施設が建 てられると考えた周辺住 民は、大反対をした。この 運動が吉祥寺北町五丁目 町会発足のきっかけとな った。 クリーンセンター完成後 も継続させることになっ た。	前身となる親睦組織が戦 前からある。元々は今より 広いエリアの住民を対象 としていた。昭和 31 年に 規約等が整備され、今の町 会になった。古くから代々 住んでいる人が多いがこ こ最近では若い世代の入居 も増えてきている。
2. 旧クリーンセンター	昭和 59 年のクリーンセン ター建設が地域のコミュ ニティを育む 1 つのきっ かけとなった。 団地のすぐ近くに建設さ れたことから、安全・安心 のために運営協議会に参 加し、30 年間監視し、住 民に報告を続けてきた。 事故などが起こる度に、幹 事会で共有し議論してき た。	元々三鷹市にあった施設 とは異なり、公害のない、 強固な建物で景観にも馴 染むものになった。 立地を踏まえ、市もお金 をかけてしっかりした施設 をつくったと思うし、運営 協議会が監視する体制が よく機能して、30 年間大 きなトラブルもなく運営 できたと思う。	市から大規模なスポーツ 施設をつくるということ で土地を譲ったが、クリー ンセンターが出来てしま ったことで、大きな確執 が生じた。 しかし、結果的にできあ がった施設は煙突も建物 もよいもので、公害もな く、嫌われる施設ではあ るが、時を経てこの地に 馴染んでいったと思う。

緑町コミュニティ協議会	けやきコミュニティ協議会	都営武蔵野緑町二丁目第2アパート自治会	クリーンむさしのを推進する会
委員:越智征夫、山崎君枝、植村進 補足:興梠信子、木村文	委員:高石優、島森和子、寺島芙美子	委員:千綿澄子 補足:興梠信子、木村文	委員:新垣俊彦
旧クリーンセンター建設にあたって緑町三丁目町会から出された「集会所建設の要望」を受け、緑町と吉祥寺北町に1館づつコミュニティセンターを建設することになった。昭和59年以降、緑町1～3丁目の住民による建設を進める準備会、「緑町にコミュニティセンターをつくる会」で、敷地の選定、コミュニティ協議会の会則、運営などについて検討をすすめ、昭和61年に開館した。	旧クリーンセンター建設への反対運動をきっかけに、「この地域にもコミセンを」と訴え、緑町と吉祥寺北町に1館づつ建設することになった。建設までに7年間を要し、敷地の選定、運営方針(けやきの精神)だけでなく、建築家(早川洋氏)の召致や間取り、建材、家具の検討に至るまで、住民主導により整備が進められ、平成元年に開館した。	武蔵野緑町団地(現武蔵野緑町パークタウン)建替えによる高家賃化後も高齢者等が地域に住み続けられる対策として、武蔵野緑町団地自治会が、団地内に都営住宅併設を求めて平成4年から建設省にも要望を出すなど、8年間にもわたって運動し、日本住宅公団や武蔵野市が東京都に働きかけ、240戸の都営住宅建設が実現した。平成12年に入居開始。	旧クリーンセンター建設にあたり、武蔵野市内のごみ処理施設について58団体が集まって議論をした。その時に集まった団体が母体となっている。こんな風に市民がまとまるのは、稀有なことだから、組織として残そうということになり、ごみ減量のための市民の協議会をつくることになった。当初は事務局と運営費は行政が担っていた。
クリーンセンターの建設に賛成した市民、反対した市民の間に微妙な関係が生まれてしまった。	建設にあたって、行政と住民が徹底的に話し合ったことから、住民もある程度納得したと思う。完成後、クリーンセンターが嫌だ、違和感があるといった話は聞かない。	旧クリーンセンター建設後に武蔵野市に引っ越してきた人が多い。私もその一人であるが、クリーンセンターは、きれいな外観だったので、ネガティブな印象は持っていなかった。市民から苦情があった時も、市は市民と向き合って説明し、対応し、市民を納得させてきた。衛生面、環境面、きちんと対応されている。	「武蔵野市内にごみ処理施設を検討する」ことが決まった後、場所も含めてどうするのが大きな課題となった。本会議場で、何度も徹夜で議論をした。5～6か所の候補地が市民から出されて、1か所づつ検証して、候補が消えていき、結果として現在の敷地になった。やむを得ず、受け入れることになるが、その際に市民側から運営協議会の設置などの条件が出された。

団体名	武蔵野緑町パークタウン 自治会	吉祥寺北町五丁目町会	緑町三丁目町会
3. 運営協議会	<p>運営協議会を通して、周辺地域の住民や行政と、地域の環境の安全について 30 年以上話し合ってきた蓄積は財産であり、未来につなげていきたい。</p> <p>市民は文句を言うだけでなく、行政と一緒に考え学習し取り組むことが大切と思う。</p> <p>近年、他のごみに関する会議に参加する中で、周辺地域以外の市民だけでなく、専門家や行政の中でさえ、クリーンセンターのやごみの事情をよく知らない人がいると感じる。だからこそ、運営協議会の経験や情報を広く伝えていくことが必要と思う。</p>	<p>運営協議会に参加したことで、人とのつながりができ、勉強にもなった。</p> <p>市と運営協議会の関係性、バランスがとれている。</p> <p>今後も運営協議会を通じた関係性が続くとよい。</p>	<p>昭和 56 年から 3 年ほど運営協議会への参加を拒否していたが、昭和 59 年に市と相互理解し、昭和 59 年に緑町三丁目町会も参加して運営協議会が設置された。事故があるとすぐに市から連絡が来る。こういうつながりが出来たのは得難い経験。</p> <p>運営協議会のメンバーは 3 団体だけでよいのか疑問もある。クリーンセンターの運営は全市的に考えていくべきと思う。</p>

緑町コミュニティ協議会	けやきコミュニティ協議会	都営武蔵野緑町二丁目第2アパート自治会	クリーンむさしのを推進する会
<p>全市民の安心・安全の監視役として、活動し機能していることは、大変重要だと思う。</p>	<p>クリーンセンターの見張り役として設置された。設置してよかったと思う。話し合いの場があるのは大切だと思う。</p>	<p>運営協議会 20 周年記念のイベントに参加し、歴史の重みを感じたし、この歴史を大切にしていかななくては、と感じた。市民とのパートナーシップにも感銘を受けた。運営協議会は、クリーンセンターを見守る、自分たちの地域にクリーンセンターのことを報告したり、情報を流したりといった役割を担っていければと思っている。</p>	

団体名	武蔵野緑町パークタウン 自治会	吉祥寺北町五丁目町会	緑町三丁目町会
4. 新クリーンセンター	<p>長い間工事が続いている。深夜にも及んだ工事だが、市民にとって必要なものと考え、受け入れている。工事中から見学会などにも取組み、講演会にも参加を呼びかけ、より身近な施設として住民に関心を持ってもらう努力をしている。</p> <p>自治会は、新クリーンセンターをなぜ再びここに受け入れたか、どのような施設かなど、住民に伝えていくことが大切と感じている。以前はイベントなどは必ず計画段階から報告があり、時には一緒に取り組んできたが、DBO方式で運営事業者が新クリーンセンターのイベントなどを行うようになり、クリーンセンターの活動が見えにくく遠く感じるようになった。</p> <p>運営事業者との懇談会が必要である。信頼関係あってこそパートナーシップが武蔵野方式の市民参加となる。</p> <p>運営事業者は、イベントなど企画段階から市民と一緒に取り組み、想いや課題を共有していくことで、クリーンセンターの価値を高めていくことが大事である。</p>	<p>ごみの広報、啓発にはまだ課題がある。クリーンセンターやエコプラザに多くの人が集まり、多くの市民がごみのことを学べるとよい。緑町三丁目町会が建て替えの議論に加わって風通しが良くなったと感じている。</p>	<p>これからの運営、安全・安心な稼働を望んでおり、町会がどう向き合っていくかが大事だと思っている。見やすい、入りやすい施設にはなったが、まだまだクリーンセンターのことを知らない市民もいる。エコプラザと合わせて全市民にとって身近な施設になってほしい。旧クリーンセンター建設時、3丁目町会は議論のテーブルにつかなかったが、今回はまちづくりの視点から議論に参画することにした。みんなで話し合うことで理解が深まり、クリーンセンターを良い施設にしたいという思いがどんどん強くなっていった。関わった市民が他の市民にクリーンセンターを自慢できる。市民参加、住民参加が活かされた。市民がどう考えているか事業者が理解した上で設計されたのがよかった。周辺に住んでいるからこそ感じていることが活かされた施設になったと思う。町会で議論に参加してよかったと思っている。</p>

緑町コミュニティ協議会	けやきコミュニティ協議会	都営武蔵野緑町二丁目第2アパート自治会	クリーンむさしのを推進する会
<p>建て替えに伴い、市民参加の意見を取り入れて、全市民が誇りに思える良い施設になったと思う。</p>	<p>旧施設と比べ、格段にごみのことが学びやすくなった。私たちが望んでいたことが実現されたと思う。クリーンセンターでのイベントなどを通じて、より多くの市民が訪れる施設になるとよい。</p>	<p>施設基本計画策定委員会から、継続して施設・周辺整備協議会に参加してきた。すばらしい勉強をさせてもらった。視察先での勉強も有意義だった。協議会では若い委員から色々な発想が出てよかったと思う。</p> <p>完成した工場棟は、外観がすばらしいと思う。前を通りすぎる度に思う。団体見学をしているのもよく見かけてうれしく思っている。夜の照明もきれいで壁面緑化も思っていたよりもよく成長し、これから緑が増えていくのが楽しみ。</p> <p>より多くの住民に直接クリーンセンターに足を運んでもらえるとよい。クリーンセンターへの想いが大切だと思う。20年間の荏原環境プラント(株)の運営にも期待している。</p>	<p>やむを得ず、ここに建設を決めた一番の前提は、「次はここではない」ということだと思っている。新クリーンセンターの最初の委員会でも、旧クリーンセンター建設時と同じ手法で、候補地を挙げて条件を整理して、1か所ずつ候補地を消していった。やらなくても結果はわかっていたかもしれないが、意味のある作業だったと思う。</p> <p>汚いものは全部外に出してしまうのではなく、ここにあるのだから、ここを中心に環境について発信する場所に、というのが新クリーンセンターだと思う。協議会には、周辺地域以外から選出されている数少ない委員の一人である。外から見ると「こんな地域エゴもあるんだな」ということもある。でも、やむを得ないことだと考えている。</p>

団体名	武蔵野緑町パークタウン 自治会	吉祥寺北町五丁目町会	緑町三丁目町会
5. 周辺まちづくり 課題・想い	<p>団地の建替えをきっかけに、それぞれがこれまで育んできた団地の魅力に気づき、まちを考え、自分たちの想いを伝え、意見交換しながら議論を広げて、まちづくりへの想いを共有してきた。</p> <p>住民にとって大切な「土と緑とコミュニティ」をコンセプトとして主張し、団地が建て替えられた。住み続けたいとの住民の想いや団地の建替え計画を外に開いたことで周辺の方々とまちづくりにつながっている。現在 11 団体になった緑懇話会も 30 周年を迎えた。</p>	<p>クリーンセンターは全市民が必要性を認める施設であるが、自分の家の近くにはあってほしくない施設。色々な対策により公害を起こさない、周辺環境に悪影響を及ぼさない施設としてつくられたが、ごみ収集車などの交通量が増えたことは間違いなく、環境への影響、負荷はあると思う。</p> <p>課題：市役所・総合体育館・クリーンセンター・野球場など公共施設の駐車場利用、歩行者のネットワークと信号機の位置、千川上水整備、ムーバス路線、総合体育館前の雑木林とクリーンセンター・エコプラザ・千川上水などの緑のネットワーク化</p>	<p>ここに再びクリーンセンターをつくる以上、まちを良くしてほしいと思っている。</p> <p>自分たちが住んでいるまちをよくしたい、まちへの誇り、想いをみんな持っている。</p>
6. まちの未来	<p>気軽に立ち寄れる施設になるとよい。</p> <p>まち育て、まちづくり、ごみを減らす取組みに積極的な住民が増えるといい。</p> <p>広がる、つながる、まちとまちがつながっていく。その中央にクリーンセンター、エコプラザがあって、対話が広がり、続いていくといい。</p>	<p>歴史的遺構として初代クリーンセンターを残すことは大切なことだと思う。</p> <p>次の世代に残し、つないでいくべきだ。</p> <p>吉祥寺北町五丁目町会はまとまっている地域と思う。昔からの地域の古いつきあいがベースにあって、新しく引っ越してきた人がその上にあるイメージ。</p> <p>町会の高齢化が課題となっており、若い人を取り込む工夫が必要と思っている。</p>	<p>プラントが寿命を迎える 30 年後が大きな課題。また建替えるのか、ごみ減量を徹底して規模を縮小するのか。市内への分散など、この周辺の負荷を軽減してほしいと思っている。</p> <p>今から 30 年後を考える必要がある。エコプラザがその役割を担えればよいと思う。</p>

緑町コミュニティ協議会	けやきコミュニティ協議会	都営武蔵野緑町二丁目第2アパート自治会	クリーンむさしのを推進する会
<p>クリーンセンターの建替えに合わせて、緑町コミセンを使いやすくしたいということで、諸々の提案をした。エレベータが設置され、本当によかった。災害時も電力供給されるコミセンではあるが、災害時の運用などが課題と考えている。</p>	<p>多忙な運営委員が多い中で、これまで培ってきたものをどう生かしていくのか、次の世代にどうつないでいくかが課題となっている。防災に対する地域住民の意識の向上、人と人とのつながりの強化で防災に強いまちづくりを目指していきたい。</p>	<p>エコプラザにくつろいでお茶を飲める空間があれば、周辺住民や周辺を利用する市民にとって身近な施設になると思う。クリーンセンターの廃熟を感じられる足湯など、みんなが行ってみたいと思えるような施設になるとよい。数年前はパークタウンと一緒にやっていた夏祭りを今は一緒にやらなくなってしまった。地域交流の場としてイベントを企画していきたい。高齢化が進んでいるので、高齢者を対象とした茶話会を企画している。緑懇話会にも、団地ができた平成12年から参加している。色々な情報交換が出来て、有意義に感じている。</p>	<p>まちづくりの整備については、どこまでお金がつかのかが気がりである。成蹊学園の万年塀が地域に貢献できるような形になったらよいと思う。災害時、クリーンセンター北隣の野球場ががれき置場となるが、がれき置場まで車両が通行できる状態なのか。まちなかにあるクリーンセンターのデメリットの一つと感じている。防災トイレについても、武蔵野市は公園内にトイレが少ないので、災害時不足するのでは、と不安に感じている。</p>
<p>クリーンセンターは、世界中から見学者が訪れる。緑町コミセンもそれに見合う施設にしたい。クリーンセンター、エコプラザと連携していきたい。</p>	<p>ごみの脱焼却を目指していきたい。市役所もあり、クリーンセンターもあり、未来のまちの縮図のような場所だと思う。この地域には、やる気のある住民が多い。色々な課題が生じて、話し合いを重ねることで乗り越えてきた。これからも話し合いを大切に、夢のあるまち、元気でいきいきとしたまちになったらいいと思う。</p>	<p>クリーンセンターがあっという間いいと思う。市役所の前にあることが素晴らしいと思っている。こういう場所に存在するということは、きちんと整備されて、害のない施設ということを証明していると思う。環境健康診断もあって、ここにつくられてしまった施設ではあるけれども、クリーンセンターは市民を守ってくれていると思う。クリーンセンターの運営、市と運営協議会の関係性が今後も続いていけばよいと思う。</p>	<p>工場棟の屋上菜園の取組みを通じて、生ごみの循環を発信していきたい。エコプラザでも展示や、コミュニティカフェへの野菜提供を通じて発信ができれば。活動の輪を広げていきたい。生ごみ堆肥については、マンションだと各家庭での取組みが難しいので、地域ごとに拠点があるとよい。アップサイクルを発信し、リサイクルは死語にしてほしい。材料として価値観を出していくことに期待したい。</p>

3. 周辺まちづくりの考え方

以上の現状と課題、周辺団体の想いを踏まえ、次の考え方によりまちづくりを進めて、課題を解決し、基本方針に示した地域像を実現する。

図示した場所、道、施設の意味とまちづくりの考え方

大事な場所 | まちづくりへの貢献が期待される、公共・公益性の高い空間

大事な道 | 多くの市民が利用する、市民生活を支える道路

大切な施設 | 利用者だけでなく、地域に必要とされ、地域住民に親しまれる公益施設

特に大事な場所 | 大切な施設が隣接したところで、特に力を入れてよりよい空間にしていく場所

「大事な道」は、バリアフリーを徹底すると共に、魅力的で心地よい街並みを形成する。

「大切な施設」は、それ自体が3方よしを具現化すると共に、施設同士が隣接するところについて、相互の空間的なつながりを強化することにより、人々の交流を育み、賑わいを生む空間づくりを行う。「特に大事な場所」において、そのようなまちづくりを重点的に行う。

「大事な場所」に関係する主体は、以上のまちづくりに協力すると共に、自ら基本方針に示したことに取り組んでいく。

